

ブラジル福岡県人会

高階 矢富 強 ジュリアノ

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

勉強のこと

僕は、体育学部を卒業してから身体運動並びにリハビリテーションの専門分野の資格をブラジルで取り、今年の四月から大川市にある国際医療福祉大学で理学療法学部の色々な授業や、卒業研究生のゼミにも参加して、新たな技術を学ぶ為に頑張って勉強しています。

僕が高齢者に対する運動や、リハビリテーションに興味をもって留学したので、「老人理学療法学」の教師と高齢者の専門家でもある中原雅美先生が僕の担当の先生になってくれました。森田正治先生も中原先生と共に色々丁寧な教えてくださり、相談にのってくれています。

始めは、本当に知らない事ばかりで凄く不安でした。住んでいる場所から大学までは、3時間の距離です。日本語で体の色々な筋、骨や、筋肉の名前もほとんど知らず、漢字の読み書きもあまり上手に出来なくて不安でした。今も、漢字の問題で凄く困っていますが、体の色々な部分の名前などは、難しいけれど大体なれてきました。先生方からは、凄く優しく教えてもらっていますし、学生達からは、仲間に入れてもらい色々手伝ってもらっています。

最初は、森田先生の学生と一緒に山王病院で一週間の実習がありました。日本の病院は、どの様に運営されているか、どのような機械や技術を使っているかを先生が見せてくれて、学生達と共に見学しました。この交流のお蔭で、先生や学生達も自分の国（ブラジル）では、どの様にしているか少し知る事も出来て、改めて留学の大切さが分かりました。

色々な授業に参加する事も出来ています。例えば前期の岡本先生が教えている「障害者スポーツ」の授業では、楽しくて凄く勉強になりました。障害者の方がどのような状態や気持ちで色々な競技に出ているか少しでも理解出来るように、先生や学生達は一生懸命に考えたり、授業中では片足や、片腕、目をつぶったままで、色々な競技のシュミレーションをして、どの様な指導を行えば良いのか実験したりしました。全国障害者スポーツ大会の歴史や、文化にどの様に影響しているかを理解し、指導現場で十分な知識・技術と経験に基づいた指導が出来る人材の育成を目的としている授業です。僕は、今まで考えた事も無かった状況を味わう事が出来、障害者の方が僕達の何倍もの努力が必要だということが少し分かった気がします。

後期では、色々な授業受けています。その中で、永井先生が教えている「運動学」は、人体における、筋、骨、関節、筋肉などの基本的知識の理解を深めるための授業です。

体の全体がどの様に働くかを理解する為です。日本語でこのような専門的な勉強は初めてなので、自分の国で勉強して覚えた事も、言葉や、解剖学の部分（体の部分）の名前が違います。知らない事が多く有りますが、一生懸命勉強しています。

中原先生は、週に一回僕を隣にある病院に連れて行き、大木町の高齢者とふれ合う機会を与えてくれています。病院では、高齢者達に体操のお手伝いをしたり、データを取る事もしています。高齢者達や、先生方、スタッフの皆様は、優しくていつも声をかけて下ったり親切に色々教えてくれたりしています。

このように素晴らしい大学や、先生方、学生達に出会う事が出来て、心から感謝しています。卒業の日まで、悔いのない様に残りの時間を無駄にせず、沢山勉強して、新たな事を覚えて、母国に帰ってから、その技術を生かして貢献したいと思っています。

ブラジル福岡県人会

平田 さゆり カレアンドラ

九州産業大学 経済学部

勉強のこと

九州産業大学で日本語と経済の勉強をしています。広瀬先生は私の担当の先生です。

研究課題名は「ブラジルと日本の違いについて—貿易の観点から—」です。

私の研究内容は日本とブラジルの経済に関して、貿易の観点から比較を行うことです。具体的には、まず、ブラジルと日本のそれぞれの輸出入についてデータ等を調べ、各国の貿易構造や経済構造について探ります。それから、前期の研究のまとめから、ブラジルが持つ比較優位について考察します。それと同時に、比較優位や貿易と経済発展に関する学習を行います。最後には、ブラジルと日本の経済に関して比較を行い、ブラジルがさらに経済発展するための策について考察します。

前期は、日本語の学習に力を入れました。大学では、日本語の授業に通って、日本語の読み書きや会話のクラスに参加しています。また、毎日日本語で日記を書いて、週に一回まとめて先生にメールで送っています。

それと同時に、ブラジルと日本の違いについての研究を行っていて、具体的には、ブラジルと日本のそれぞれの国の輸出入に関する時系列データ等を調べ、そこから、ブラジルと日本の貿易構造や経済構造を比較し、それらに関するまとめを行います。この研究は、ゼミナールで発表する予定です。それに加えて、ブラジルと日本の比較のためには、日本の経済について知る必要があるため、日本経済史と産業概説の授業を履修し、理解するために頑張っていました。しかし、私はあまり日本語がわからないので、経済のクラスの授業は、全部日本語で全然意味がわかりませんでした。なので広瀬先生は、日本の経済史の本を貸してくれて、常にニュースと経済のデータが分かるようにしてくれました。その後でまとめたデータを使って、先生とディスカッションを行っています。

後期は、ブラジル経済と日本経済の比較を行い、ブラジルが持つ経済的優位性について考察します。具体的には、前期の研究結果であるブラジルと日本のそれぞれの国の輸出入に関するまとめと、国際経済学の分野で得られた知見をもとに、ブラジルが持つ比較優位を探ります。そのため、貿易論に関する復習を行いながら、比較優位や貿易と経済発展の関係について学習を深めます。最終的には、ブラジルと日本の比較を行いながら、ブラジルの経済発展のための策に付いてまとめています。

毎週、私と広瀬先生はミーティングをしています。私たちはブラジルと日本の違いについて話しています。例えば経済、文化、行動、政府、新品、ニュースなどについて話します。

広瀬先生は、もっとブラジルの事や、文化などが知りたくて、私はポルトガル語を教えたり、ブラジルのデータや写真を見せて紹介しています。その代わりに先生は、日本の歴史や文化の事を色々教えてくれています。

広瀬先生との交流は、お互いにとって凄く勉強になっています。なぜなら、自分だけでなく先生も色々ブラジルの事も覚えているからです。

この留学を通して、新たな事を学び、ブラジルで貢献したいと思って頑張っています。

パラグアイ福岡県人会

北川 瞳

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

勉強のこと

私は、国際医療福祉大学へ通っています。医療福祉を専門とする総合大学です。日本内に多数のキャンパスがあり、国外で活躍できる医療福祉専門職の育成もめざし、海外研修にも取り組んでいます。私は、ここで理学療法を勉強させて頂いています。

前期では、運動学に関する科目の授業を受けました。講義の内容はわかりやすく、実践もあり、とても勉強になりました。中でも一番良かったのは、導入している大学は数少ないと言われている、障害者スポーツに関する授業を受講できたことです。この授業では、障害者スポーツの競技特性やルールを知り、障害を持つ方々のスポーツの楽しみをサポート出来るように、クラスメイト達と話し合いながら、障害に応じた指導の工夫や、新しいスポーツを開発したりしました。

後期は、この留学で希望していた発達障害と小児理学療法士の授業を受けています。小児疾患に対する評価や治療法を通して、専門知識と技術を学んでいます。

卒業研究発表作成にも仲間に入れてもらい、発表会にも参加させて頂きました。皆さんとても素晴らしプレゼンテーションでした。様々な分野の新たな技術を知ることが出来、どれも興味深いものばかりでした。

又、日本の理学療法士はどのように仕事を行っているのか勉強したいと思い、先生方に病院や施設などの見学をお願いしました。

病院見学では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士達が共同で作業を行っている現場を知ることが出来ました。お互い協議をし、一人ひとりに対し適切な治療法や成果を知ること、色々な分野の専門家が集まったチーム治療の重要性について理解を深める良い機会になりました。

障害児が通う幼稚園の見学では、理学療法士と幼児の関係や対応だけでなく、ご家族の方とお話が出来、実際の感情や希望を聞く事から多くの刺激を受けました。

このような見学を通して、一つ一つ丁寧なご指導のもと様々な経験をさせて頂きました。日本の保険制度の仕組みや、理学療法士がどのように対応や応用されているのかを知ることが出来ました。

実際に街にでて見学することは、様々な方とのふれあいから幅広い経験をすることが出来ました。

この貴重な経験を活かし、自国の健康学科の発達に役立ちたいです。丁寧にご指導いただいた日本の高度な知識や技術を身につけ、それを発展していけるよう、頑張りたいです。

残り少ない留学生活となってしまいましたが、少しでも多くのことを経験し、さらに新しいことを学びたいです。

本当に良い先生方との出会いの機会をいただき、この様に素晴らしい結果につなげて頂いたことに感謝しています。ありがとうございます。

在ボリビア福岡県人会
緒方 翔 マルセロ

研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター

勉強のこと

私は、ボリビアで2014年に農学部を卒業し、その後父と稲作と畜産の栽培をしています。ボリビアでは約700ヘクタールのINDICA米を水田で植えています。ボリビアでは1ヘクタールで取れるお米の平均は、4トンから5トンですが、その平均は日本に比べたらすごく低いです。そのため私は日本で使われている栽培技術を学びたいと思いました。

私は、稲作の栽培方法を学びに来ました。現在私は、福岡県・筑後市にある九州沖縄農業研究センターの栽培グループで研修をさせてもらっています。栽培グループでは、主に稲と麦の研究をしているので、私にとって日本の稲作を習得するには、最高の環境です。

研究所で勉強した事は、稲の苗作りから始まり、田んぼの準備、施肥設計や病害対策など様々なことを学んでいます。

・ 苗作り



ボリビアでは、稲を植える時に移植をせずに、直播をします（種から植える事です）。私がこの過程からわかったことは、稲作では、苗作りが一番大切だということです。とくに重要なことは、多少の播種量が苗の生育にどのように影響するかを見ました。種の量が多い（230gから200g）場合は、稲の茎と葉が伸び過ぎて光の通過が悪くなるので生育に影響します。

・ 田んぼの準備



私が見た感じでは、日本の場合は田植えの際に、とても田んぼの準備にこだわっています。最初に行われるのは、耕起（土を掘り返したり反転させたりして耕すこと）、しろかき（田に水を入れて土を砕いてかきならす作業）です。ボリビアの稲作では、耕起は行いますが、しろかきは行いません。

・ 施肥設計

日本では施肥の設計はボリビアで行っている方法と少し違います。日本では、施肥（チッソ-N2）を二回かけます。一回目は、田んぼの耕起する前にかき、二回目は稲穂が出る17日前です。ボリビアでは、三回まで施肥をかけます。一回目は耕起の後、二回目は稲が分けつ期に入る前と最後の三回目は穂が出る15日前です。

その他に私は、研究者の研究を手伝っています。生育調査やサンプルの切り取りや色々な作業に参加して、そのおかげで稲の研究の方法も教えてもらっています。あと、私がお世話になっている森田先生には、日本の農家さんを紹介してもらいました。農家さんたちは、すごく親切で色々なことを教えてくれます。



例えばどうやったら栽培のコストを下げる事が出来るかや、どうやったら美味しいお米が出来るか、その他貴重な情報も教えて頂いています。今回の留学は私にとって大切な体験になっています。日本で勉強した事をボリビアで農業をやっている人にも教えていきたいと思ひます。

ペルー福岡クラブ
グティエレス タナベ アレックス

九州造形短期大学 造形芸術学部

勉強のこと

写真の勉強を始めた頃から、あらゆる種類の写真に興味があった。風景写真やコマーシャル写真や日常の写真も好きだ。しかし、その中でも一番好きなジャンルは、ポートレート、人物の写真だ。なぜポートレート写真が好きかと言えば、ポートレートを通して人間の美しさを表せると思うからだ。表情、ポーズ、場所、色、ライティング、ムード、写真家としてその全てを決めることができるので、それらを使いこなせば、人間の生活ややる気や趣味や感情など表すことができると思う。そして、たとえ一瞬のものだとしても、その人間の様々な様相を写真に焼き付けるのがポートレートフォトグラファーとしての責任だと信じている。さらに、人間はそれぞれ違うので毎回撮影に行く時に新たなことを学ぶ機会になるから、ポートレートの方が面白いと思う。

今までペルーでエンジニアとして働いてきたが、今年の四月から留学生として来日させていただき、学生に戻る素晴らしい機会を手に入れた。なぜそう思うかと言えば、私にとって大学や短大の時代は人生の一番美しい時代の一つだからだ。就職活動のことで悩んだり、卒業制作のことを心配したりする時があるかもしれないが、新しい人と出会ったり、友達と一緒に授業をさぼったり、放課後にみんなでご飯を食べに行ったりする時もある。この年齢はもう子供ではないけれど、完全に大人でもない。将来のことを考える義務があるが、精一杯楽しむ権利もある。それがこの時代の美しさだと思う。なので、自分の研究は普通のポートレート写真ではなく、九州造形短期大学の生徒達の青春を写真に焼き付けることにした。

学生の青春を表す為に、その前にどうやって自分の写真にリアル感を表せるかと考えなければならなかった。だから、最初は他の有名なポートレート写真家の作品を見てから、その写真家の作品を真似してみた。しかし、この作者の写真を真似する為に、ロケや表情やポーズなど全部自分で決めないといけない。しかも、美術系の写真家は無表情な顔を高く評価する（なぜなら、美術に笑顔は人間の真実を隠す表情と信じられている）ので、自分の作品に似合わないと思った。もちろんそれは断じて悪いことではないが、自分の作品には人それぞれの自然な表情を表したい。なので、学生さんと日頃普通に通う場所、遊びながら写真を撮った。又は学校で、作品に使えるような日常の写真のシャッターチャンスがあれば、そのチャンスを逃さないようにしてきた。

簡単そうに見えるが、人間はカメラに気づくと一番綺麗に写ろうと思えば表情を作り、カメラに向ける。それを避けるために、モデルが気づかないうちに数枚を撮らなければならない。失敗がたくさんあるので、良い写真一枚を撮るために、毎回50枚ぐらいとらなければならない。

今まで11枚の写真をセレクトしたが、最終審査まで30枚以上撮っていききたい。その為に、毎週1回別の学生さんと撮影に行きたい。又、もうすぐ年末年始なので、その季節に関わる写真を撮れるチャンスがあったらそのチャンスも活かしていきたい。30枚が完成した後、A3サイズの紙を使い全部を展示したい。

メキシコ福岡県人会
エルナンデス 吉開 順一

九州造形短期大学 造形芸術学部

勉強のこと

皆さんこんにちは、今年は九州造形短期大学でグラフィックデザインの勉強をしています。写真、映像、アニメについて詳しくなりたいと思ったので、この学科を選びました。それに絵を描くことやモノを作ることが好きだったので、好きなことに一生懸命に取り組める環境が整っている造形短期大学への入学を決意しました。帰国後は、メキシコで内定したデザイン会社で早く一人前になり、会社や社会に貢献できる存在になりたいと思います。

日本での勉強はメキシコとはシステムも言葉も違うので、複雑で、困ることもたくさんあります。いつでも集中して勉強することは必要である事も学びました。日本の友人を作るとは日本語を学び、日本についてのさらに知るための最良の方法である事も学びました。

メキシコでデザインの勉強をしていたときも、アニメに詳しくはありませんでしたが、グラフィックデザイナーの多くはたいていアニメを作りたいと思っています。なので、この機会に僕も日本のアニメテクニックを勉強したいと思いました。このテクニックを身につけることができればメキシコに帰ってから、私はよりたくさん仕事の機会を得ることができると思います。

また、映像の事も知りたいのでそれも勉強しています。ビデオ(ストップモーション)を作成するのはとても大変な能力が必要でたくさん時間もかかります。一秒の映像を作成するには1時間ぐらいかかります。だからこの技術を持っていると、とてもよい給料が支払われます。メキシコで自分の会社の中に、このサービスを取り入れたいと思います。

日本が牽引するポップカルチャーマンガとアニメ。個性的なグラフィックデザイナーが数多くひしめき合い、時代性を反映した刺激的なデザインを次々と世に送り出しているジャンルです。だから、日本のアニメも勉強したいです。日本でアニメについて技術を上達させ、メキシコでたくさん仕事を見つけないと思っています。アニメの技術があれば何でもできます！マスコットやキャラクターも作ることができます。メキシコの皆は日本のキャラクターはすごくかわいいと思っているので、新しいキャラクターを作ったらそれはいい仕事の機会につながります。

私は自分が研究しているテーマについて、可能な限りすべてを学びたいと思います。日本のデザイン、芸術や日本文化、そして日本語も多くを学びたいと思います。私は日本で本当によい経験をし、たくさん事を身につけていると思います。

今年の経験は非常に有意義なものだと思います。だから、帰る前までに学べることを全てを学びたいと思っています。日本は私にたくさんを教えてくださいました。私は福岡県国際交流センターとメキシコ福岡県人会に非常に感謝しています。本当にありがとうございました！来年の3月までよろしくお願ひします！

メキシコ福岡県人会

寺本 英樹

福岡大学 商学部

勉強のこと

私はメキシコでマーケティングの勉強をしました。日本に来る前に自分の会社を設立しました。その会社は雑誌社です。2005年ぐらいから、たくさん日本の自動車工場がメキシコに工場を作りました。NISSAN、TOYOTA、MAZDA、HONDAがアメリカや南米で車を製造しています。そのおかげで日本の会社から多くの社員が派遣されてメキシコに住んでいます。今は色々な新しいビジネスが出来る時代です。私が設立した会社は、日本人向けの役に立つ情報がたくさんっている雑誌です。メキシコの観光や、食べ物、文化、アドバイスなどメキシコで生活するうえで色々な便利なことを、それを知らない日本人に教えるための雑誌です。

日本での勉強についてですが、福岡大学の太宰先生にお世話になっています。月に2回レポートを送って、日本の経済そしてマーケティングを調べています。日本はほかの国と比べたら高度な国です。日本人は小さな時から素晴らしい教育を受け、一度始めたことは最初から最後まで厳しくやります。それはマーケティングについてすごく利点となります。なぜかと言うと日本のシステムは細かく数えることができます。それが出来たらマーケティングについて色々なデータが取れるし、何を、何処で、いつ、どういうふうにお客さんが買い物をするかも知ることができます。

研究について、雑誌のことをたくさん学びました。

印刷媒体の構造は、広告販売、編集コンテンツ、メディア、印刷、循環や分布の設計に基づいています。

- 広告の販売: 企業の財務基盤である、広告スペースは、印刷媒体で出版されるように販売されています。
- 編集内容: 印刷媒体を定義するものです。公開の対象は、ファッション、スポーツ、観光、文化などです。
- メディアの設計: これは、テーマ、目的、内容、読みやすさを定義するものです。
- 印刷: どのように印刷するか、コピーのことです。
- 循環または配布: これは、市場に浸透する方法を定義します。これは、有料または無料ですることができます。

私の目標はたくさん日本語の勉強をして、福岡大学で受けさせてもらっている勉強をメキシコで再度学ぶことです。そして勉強した広告の知識を生かして、2016年メキシコで行なわれる福岡県人会世界大会にたくさんの青年が参加することが私の目標です。

アルゼンチン福岡県人会

江口 イネス マリア

九州大学大学院 芸術工学府

勉強のこと

前期には、たくさん面白い授業がありました。全体ではデザインの授業が6つと、日本語の授業が1つでした。すべてのデザインの授業は日本語でしたので、初めはあまり分かりませんでした。単語は難しいです。でも授業の後で、私は先生たちにもう一回授業を教えてもらいました。先生たちはとても優しいです。今は日本語が以前より分かります。

前半は毎日大学に行って授業に出席して、研究室で勉強しました。紙飛行機や本棚、子供の本を設計しました。後のワークショップでこの自分で設計したものを作りました。毎日ワークショップで、自分のプロジェクトに励みました。ワークショップは最高です。私はハンドワークこそストレスの解消法だと思います。ハンドワークが大好きです。

そして田村先生の英語のクラスを手伝いました。このクラスは皆英語で話さなければなりませんでしたが。私はこのクラスで逆に日本語をよく覚えました。田村先生はとても優しい人です。英語がよく話せるので、いつも大変な時には先生に手伝ってもらいました。

後期には研究しかしていませんので、前期より大学へあまり行っていません。寮で勉強しています。

私の研究は福岡県の伝統工芸の調査です。伝統工芸品の作り方や材料、テクニックなどを研究しています。この伝統工芸品は博多織や大川組子、八女矢や博多人形や八女和ゴマなどです。そのために博多の伝統工芸館と博多町家に行って、曲げ物の作り方を見ました。職人はほんとうに上手で、作り上げる製品は完璧です。そして福岡よかもんひろばに行きました。そこには福岡県の伝統工芸品のきれいな展示室があります。伝統工芸品が多くて、とても面白いです。このようなことをたくさん知りたいです。

尾方先生は私と生徒を八女伝統工芸館と八女和ゴマの工場へ連れていってくれました。八女伝統工芸館には、たくさん伝統工芸品があります。そして八女手漉和紙の作り方を見て、和紙を作りました。八女和ゴマの作り方も見て、職人に使い方を教えてもらいました。

作り方や材料やテクニックのほか、何故日本の伝統工芸は時間が経過しても変わらず保存されてきたのかや、新しい方法を用いつつ、伝統的なテクニックを取り入れて作った工芸品も研究しています。このような技術とアルゼンチンの伝統工芸をあわせた新しい工芸品をデザインしたら、アルゼンチンの地元経済を活性化できると思います。

今まで八女と博多の伝統工芸品、日本のデザインの歴史を勉強しました。英語とスペイン語でのインフォメーションがあまりありませんので、日本語でのインフォメーションを探します。そして研究のレポートは日本語で書けなければなりません。大学で日本語の授業に出席していますが、とても難しいです。英語で書けたらいいですが、それもできないかもしれません。

観光をする時にも研究のことを忘れません。先週京都と養老公園と岡山の倉敷に行きました。そこでは美術館や伝統工芸館を研究しました。その伝統工芸館はすごく面白かったです。日本中の伝統工芸品があります。

これからも研究を続行します。福岡県の全ての伝統工芸品を研究するために旅行をするつもりです。福岡の伝統工芸品は多いですので、全部勉強する事は難しいかもしれません。でも頑張ります。

南加福岡県人会
松井 エリック 武士

福岡工業大学短期大学 ビジネス情報学科

勉強のこと

私はビジネス情報技術について学ぶために福岡に来ました。プログラムの使い方、プログラミング、および日本のビジネス文化を修得する方法を学んでいます。過去数ヶ月にわたって、私はこれらのトピックを研究していると、多くの類似点に気づきました。私が日本に来る前、すでに米国では情報技術の多くの側面を検討しました。私は顧客にサービスを提供し、自分自身でビジネスを展開していました。私が日本に来た理由は、より多くを学ぶためと、そして帰国してから仕事のチャンスを掴むためでした。正直に言うと、授業で教えられたものの多くはすでに知っていました。新しく学んだ事は、ビジネスを行う際に自分を表現する方法でした。

プログラムの授業では、私はフォトショップ、イラストレーター、ドリームウィーバーのような多くのアドビ製品を使用しています。フォトショップとイラストレーターは画像処理のために主に使います。ドリームウィーバーはウェブサイトやウェブコード (HTML, CSS, Java 等) 操作のため使います。幸いにも、コードと言語の多くは英語です。従って、私は専門用語を理解するのは簡単です。

米国の授業と比較すると、日本の授業がより時間が集中しており、さらによりリラックスした雰囲気です。米国では、授業時間は自分で変えることができます。いくつかは、自分の好きな時間の長さにすることができ、そしていくつかは長くすることができます。日本での授業は米国に比べて容易であると言われていています。私はそれに同意しますが、米国の学業は常に良いとは限りません。米国で学んだにも関わらず、私は学んだことの多くは今の生活とは無関係になってしまいました。私はその知識を使用することはありませんので、私はそれらの多くを忘れてしまいました。

日本の授業で、私が気づいた一つの大きなものは、使用する教科書です。米国では、ほとんどの場合、教科書は特定の主題に関するもので、できるだけ多くの情報が載っているものを選びます。このため、大きく重く、かつ高価です。一部の教科書は、簡単に\$ 100 以上 (1 万円ぐらい) かかります。日本では、私はほとんどのクラスは、標準化された授業時間なので、教科書は我々が学べる範囲の薄いものしか必要ありません。授業の長さ按比例することに気がきました。私が本屋で見た最も高価な教科書は 3 千円でした。

また、私は大学の外でも研究をしてきました。それは日本語を勉強することも含みます。日本と日本文化を勉強しています。たとえば、博多弁と福岡弁。「話している」は「話しよりも」になります。「米国人だけ」は「米国人やけん」になります。確かに、漢字は習得が困難でした。英語は多くのルールと例外を持つ単語もあります。しかし、漢字は、文字と多くの組み合わせが数千種類あります。ほとんどの人が自国の言語以外の別の言語を習得することは、困難なことです。例えば、私の担当の先生は私に英語を話してもらうために、私たちのセミナーに他の学生を呼びます。彼らは日常的に英語を話さないで、彼らが学んだ英語のほとんどを忘れてしまっていました。言葉を思い出せないのでイライラし、さらに忘れた言葉は彼らの語彙のすべてなので、誰かにそれを伝えることは困難です。そのため残念ながら彼らは私に英語を話すことをやめて、私に簡単な日本語を話すことをより好むようになりました。

南加福岡県人会

プリビ エミリー ジョン

九州大学大学院 人間環境学府

勉強のこと

この一年間、私は九州大学で都市計画について研究しています。そこで、たくさんの方を学ぶことができました。担当の先生であるプラサナデビガルプテア博士が私の研究を手伝ってくれています。研究のトピックはいろいろな考えがあるので、決めるのはむずかしかったです。初めはテクノロジーパークを日本の小さい町につくって、日本の人口が増えるトピックでした。けれど、プラサナ先生からはこれは一年では、勉強出来ないくらいの量だと言われました。私の今の研究は、セルフドライブ車のテストコースを日本で作る事です。今、世界では、色々な国が世界初のセルフドライブ車を開発するために競争しています。アメリカ、ドイツ、中国と日本はこのグローバルレースで一位を争っています。アメリカはグーグルやアップルなどの会社がセルフドライブ車のテクノロジーマーケットに参戦しています。ドイツはセルフドライブの部品を世界に一番供給しています。なぜ世界は初のセルフドライブ車を作りたがるのか？それはセルフドライブ車のマーケット需要はとても高く、とても有利なマーケットになる可能性があるからです。2025年には年間42億ドルの予算です。

今年、日本で一番大きな自動車製造会社は外国のライバルたちに勝つために、政府、日本の部品メーカー会社、研究者が集まり、協議をしました。現在、世界ではセルフドライブ車は公道で運転する事を禁じられています。この新しい技術は何回もテストをし、完璧にセルフドライブが出来る施設が必要です。私の研究は、日本で自動車製造、部品メーカー、研究者らと協力し合って、車とパーツ技術をテストできるテスト施設をデザインする事です。

一番大変な問題は日本のどこでこの施設を作るかということです。天気、建設、土地のコスト、政府のルールやレギュレーション規制を研究し、いろいろな場所を視察しましたが、やはり九州は世界の中でも自動車産業が発展しているので、北九州に決めました。トヨタや日産の工場があるので、たくさん自動車産業会社があります。それと、北九州学術研究都市もあります。ここでセルフドライブ車の技術の研究をしています。北九州市は会社と学術研究をコラボレーションするのをとてもサポートしています。これらを全てあわせて考えると、北九州は日本の中で一番セルフドライブ車のテスト施設に適している場所です。

今私はこのテスト施設のデザインやコースにある成分を研究しています。人工知能は人間のドライバーと取り換えると、たくさん問題が発生し、それに対処しなければいけません。例えば、高速道路のスピードリミットサインに落書きされていたら？又は木の枝が邪魔をしてあまり認識できなかつたら？車のセンサーはこのサインを読めるのか？古い道の中央分離帯が剥けていてもセンサーは読みとれるのか？いろいろな状況を考えて、このテスト施設で何通りもの状況で考慮し、問題がないと確認出来たら、次に道でテストして、マーケットに出します。もしかしたら日本が世界初のセルフドライブ車を紹介できるかもしれません。